

令和 8 年 10 月 20 日

報道機関 各位

国立大学法人電気通信大学

電気通信大学学生 ✕ 新潟県小千谷市等の産学官民。 地域・専門性を超えてタッグを組み、「雪」課題解決に挑戦開始！

【ポイント】

- * 電気通信大学が、文部科学省「都市と地方の連携を通じた国内留学等の促進事業」に採択。
- * データや AI 活用の電気通信大学学生、公共政策・経営の国際大学（新潟県南魚沼市）留学生、地域スタートアップ 2 社等が越境共創チームを組成。日本屈指の豪雪地帯で、最大の課題「雪」に挑む。

【概要】

国立大学法人電気通信大学（東京都調布市、学長 村松正和、以下「本学」）は、令和 8 年度の文部科学省「都市と地方の連携を通じた国内留学等の促進事業」に採択されました。これを受け、新潟県小千谷市を主なフィールドとする国内留学型の教育プログラム「越境共創チャレンジプログラム（通称「越電プログラム」）」を始動します。

令和 8 年度から 10 年度まで 3 か年をかけ、本学を中心とする首都圏の学生が、1 年次から大学院まで複数回・複数年度にわたって地域へ赴き、地域の当事者とともに課題解決に取り組む正課型プログラムを体系化し、持続的で有機的な地域との関係性を構築します。

10 月開始の第 1 期メンバーは、本学学域 2 年生から博士前期課程 2 年生まで 7 名。うち 3 名が新潟県出身、4 名は U☆PoC（UEC アイディア実証コンテスト）企業賞受賞チームで、現地での活躍が期待されます。

【特徴：3 つの越境】

1 地理的な越境

：首都圏と地域との共創。現地滞在とオンラインを組み合わせ、持続的な関係性を構築します。

2 専門性の越境

：データや AI を学ぶ本学学生と、グローバルサウス等から多くの留学生が公共政策・経営を学ぶ国際大学の大学院生等で、専門領域や国籍を越えた連携をします。

3 社会的立場の越境

：首都圏の学生が、地方の「観察者」ではなく「共創者」として、地域の企業・自治体・金融機関とともに課題解決策を試行します。

【課題：日本有数の豪雪地帯の、「雪」】

小千谷市および周辺地域で最も切実な課題である「雪」に取り組めます。連携するのは、AI と空間コンピューティングを用いた自動運転除雪システムの実証を進める株式会社 Quark（小千谷市）と、化石燃料を使わないコンテナ型雪室を展開するアイスライス株式会社（南魚沼市）の、いま注目を集めるスタートアップ 2 社です。本学学生は現地滞在とオンラインを組み合わせ、両社とともに、課題の発見から解決策の実装まで一貫して挑戦します。

【「観察者」ではなく、地域の未来に責任ある形で関与する「共創者」へ】

本学、小千谷市並びに国際大学、連携企業が密に交流を重ねることで、学生を「観察者」にするのではなく、地域の未来に責任ある形で関与する「共創者」として育成し、継続的に地域課題の解決に取り組みます。



※宮崎市長をはじめ小千谷市との関係性がスタート



※左：小千谷市商工会議所を含め地域企業と連携



※右：国際大学では、異なる専門領域の両校がシナジーの方向性を議論



※左：アイスライス社の「雪室コンテナ」が設置される、魚沼産コシヒカリの圃場



※右：アイスライス社のオフィスにて、原澤代表からピーク時の積雪が3m弱になることや除雪の現状を説明

【提携スタートアップ企業より：「世界的にも初めてのビジネスを」】

提携スタートアップ2社からのコメント

・株式会社 Quark 代表 風間 健人 氏

「害悪とされてしまっていた雪を資産に変えていく、そんな取り組みができればと思っております。除雪の自動化は、どんな領域もあまりやられていないところなので、今回一緒に作らせていただくものは、世界的にも初めてのビジネスを作れると思います」

・アイスライス株式会社 共同代表取締役 高瀬 章充 氏

「どれぐらいの外気温・内気温、風の量で、雪の解けるスピードがどう変わったかというデータは、多分世界中で誰も持っていないし、僕らが一番持っているものだと思います。みなさんの力をお借りして先に進めると、非常にありがたいです」

【参加学生より：「地域課題の解決に向けてアイデアが実現するか挑戦したい」】

参加学生からのコメント

・I 類（情報系）デザイン思考・データサイエンスプログラム3年 石見 友夢 さん

「新潟出身で、雪や、地元の知らない一面を知りたくて、このプロジェクトに応募しました。雪は、災害として扱われることがありますが、新潟の特徴ですし、活かしていけるような方向の実現に役立ちたいです」

・I 類（情報系）コンピュータサイエンスプログラム3年 小池 麻悠子 さん（U☆POC：UEC アイデア実証コンテスト 大学賞・企業賞受賞）

「U☆POC では、雪下ろしロボットのアイデアを出して、大学賞と企業賞をもらいました。それを実際に使えるか、試すところまで行ければと思っています。専攻はコンピュータサイエンスで、自分の興味があるのはビッグデータや量子コンピューターですが、だからこそ今ハードウェアに取り組みたいと考えています」

・博士前期課程情報学専攻2年 海老澤 元 さん（U☆POC：UEC アイデア実証コンテスト 企業賞受賞）

「ソフトとハードどちらも好きなので、ロボットのような機械の開発や、3D スキャン、ガウシアン・スプラッチングに興味があります。それらと地理空間情報を組み合わせた研究を学会でよく見るので、その実用化に取り組めることが楽しみです」

【年間スケジュール（予定）】

時期	内容
2026/10/5	小千谷市長および小千谷商工会議所への表敬訪問。現地での取り組みを開始
2026/10/7	受け入れ企業2社（Quark、アイスライス）による学生向けオンライン説明会
2026/10/20	受け入れ企業2社と学生のオンラインディスカッション
2026/10/29 ～ 31	第1回 現地フィールドワーク（小千谷市～南魚沼市／2泊3日）。国際大学を訪問して「雪課題と公共政策」のテーマに関心をもつ外国人留学生とセッション後、小千谷市役所およびスタートアップ2社を訪問して取り組む課題につきディスカッション

2026/11/21・22	調布祭（電気通信大学）で発表
2026/11/25	YUKIGUNI STARTUP DAY 2026（有楽町 TiB）で交流
2026 年 12 月～ 2027 年 2 月	リモートでの開発作業で実装に挑戦
2027/1/22～24	年間で最も豪雪の時期に第 2 回 現地フィールドワークを実施、現地で中間発表
2027 年 3 月	最終成果報告会

【事業概要】

事業名	文部科学省「都市と地方の連携を通じた国内留学等の促進事業」
構想名	越境共創チャレンジプログラム
実施主体	国立大学法人電気通信大学
事業期間	令和 8 年度～令和 10 年度（3 年間）
主なフィールド	新潟県小千谷市を中心とする地域
主な連携先	小千谷市、小千谷商工会議所、国際大学、株式会社 Quark、アイスライス株式会社、Socialups 株式会社 ほか

【連絡先】

＜本件に関すること＞

電気通信大学キャリア支援センター

【職名】 特任准教授

【氏名】 古川 浩規

E-Mail : furukawa@uec.ac.jp

＜報道に関すること＞

電気通信大学総務部総務企画課広報係

Tel : 042-443-5019 Fax : 042-443-5887

E-Mail : kouhou-k@office.uec.ac.jp